

愛称：トリプル維新ファンド(安定タイプ)/(成長タイプ)

信託期間：平成28年6月24日 から 平成38年6月23日 まで

決算日：毎年6月23日(休業日の場合翌営業日)

基準日：2016年9月30日

追加型投信/内外/資産複合

## 《トリプル維新ファンド(安定タイプ) 運用実績と資産内容》

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

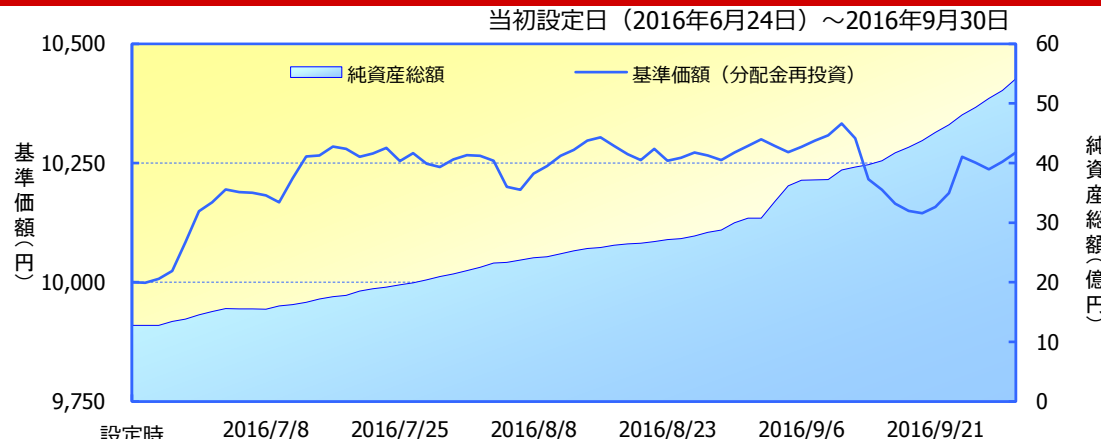
### 基準価額・純資産の推移

2016年9月30日現在

基準価額	10,272 円
純資産総額	54億円

### 期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-0.1 %
3カ月間	+1.9 %
6カ月間	----
1年間	----
3年間	----
5年間	----
年初来	----
設定来	+2.7 %



※「基準価額(分配金再投資)」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。  
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(7ページ目の《ファンドの費用》をご覧ください)。  
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額(分配金再投資)」を用いた騰落率を表しています。  
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

### 分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-

### 分配金合計額

設定来：0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

### 通貨別構成(純資産比)

通貨	比率
日本円	88.5%
米ドル	6.7%
ユーロ	1.2%
香港ドル	0.7%
韓国ウォン	0.5%
豪ドル	0.4%
英ポンド	0.4%
台湾ドル	0.4%
南アフリカ・ランド	0.2%
その他	1.0%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

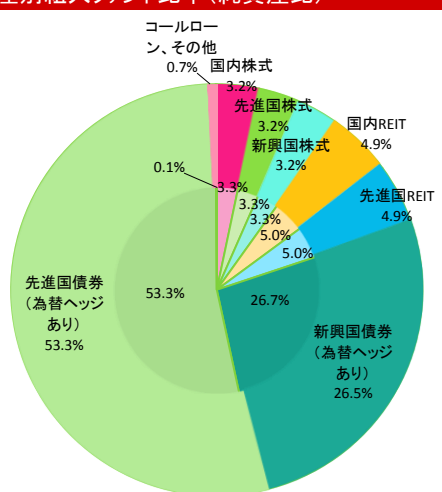
※比率は、組入ファンドの合計です。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

### 国・地域別構成(純資産比)

国・地域名	比率
アメリカ	27.9%
日本	8.8%
フランス	5.9%
イタリア	4.9%
イギリス	4.5%
ドイツ	3.9%
メキシコ	3.2%
トルコ	3.2%
ロシア	2.9%
その他	34.7%
合計	100.0%

### 資産別組入ファンド比率(純資産比)



安定タイプ	基本配分比率	2016年8月	2016年9月
国内株式ファンド	3.3%	3.2%	3.2%
先進国株式ファンド	3.3%	3.2%	3.2%
新興国株式ファンド	3.3%	3.2%	3.2%
国内REITファンド	5.0%	4.9%	4.9%
先進国REITファンド	5.0%	5.0%	4.9%
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド	53.3%	52.0%	53.3%
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド	26.7%	26.1%	26.5%
コールローン、その他	0.1%	2.3%	0.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※円グラフの内側の数値は基本配分比率、外側の数値は基準日ベースの実際の組入比率です。

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。8ページ目の《当資料のお取り扱いにおけるご注意》をよくお読みください。

設定・運用



商号等

加入協会

ワイエムアセットマネジメント

ワイエムアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第44号

一般社団法人投資信託協会

# 《トリプル維新ファンド(安定タイプ) 組入ファンドと月次変動》

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

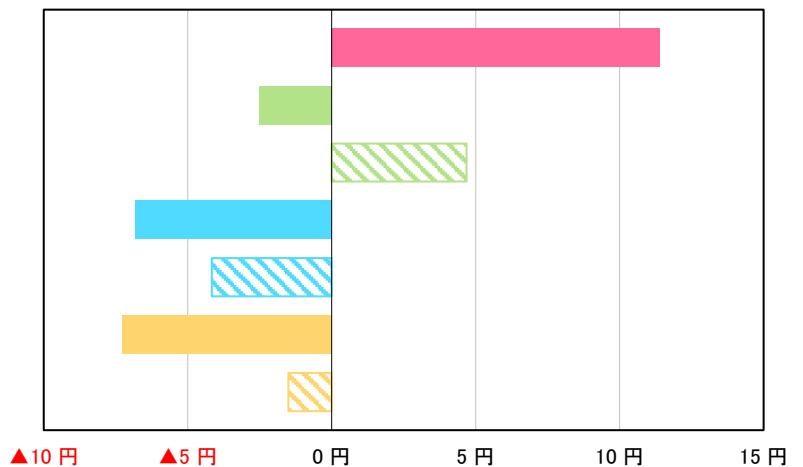
投資信託証券(ファンド名)	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+3.4%	+9.1%	---	+12.9%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.9%	+6.3%	---	+9.1%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.3%	+12.3%	---	+15.0%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-1.3%	+0.2%	---	+5.3%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-1.0%	+1.7%	---	+4.1%
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-0.1%	+0.5%	---	+0.7%
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-0.1%	+3.8%	---	+4.4%

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2016年9月末の基準価額	10,272 円
2016年8月末の基準価額	10,286 円
変動額	▲14 円
内訳	合計
国内株式ファンド	11 円
先進国株式ファンド	▲3 円
新興国株式ファンド	5 円
国内REITファンド	▲7 円
先進国REITファンド	▲4 円
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド	▲7 円
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド	▲2 円
小計	▲6 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲8 円



※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

ファンドマネージャーのコメント

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

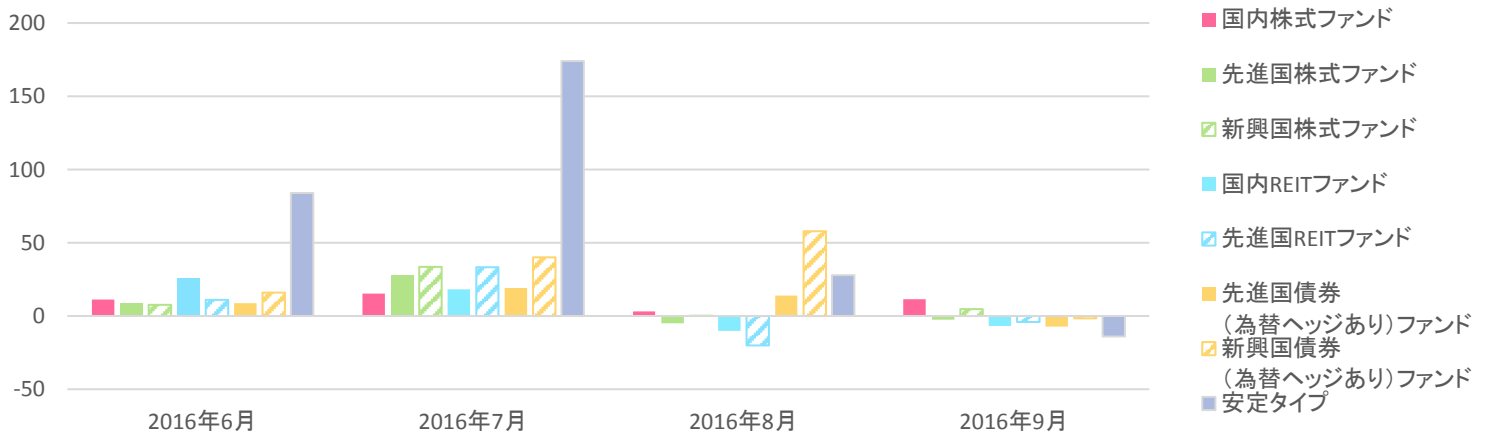
ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

米国利上げへの警戒感や日銀の金融政策不透明などを受けて、先進国債券(為替ヘッジあり)や国内REITがファンドの下落要因となりました。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



愛称：トリプル維新ファンド（安定タイプ）/（成長タイプ）

信託期間：平成28年6月24日 から 平成38年6月23日 まで

決算日：毎年6月23日（休業日の場合翌営業日）

基準日：2016年9月30日

追加型投信 / 内外 / 資産複合

## 《トリプル維新ファンド（成長タイプ） 運用実績と資産内容》

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

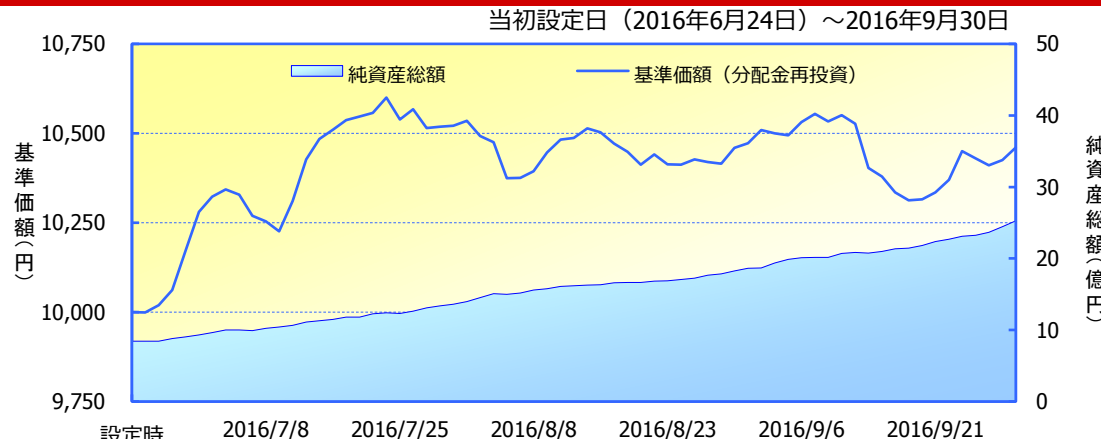
### 基準価額・純資産の推移

2016年9月30日現在

基準価額	10,460 円
純資産総額	25億円

### 期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-0.1 %
3カ月間	+2.8 %
6カ月間	----
1年間	----
3年間	----
5年間	----
年初来	----
設定来	+4.6 %



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。  
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の《ファンドの費用》をご覧ください）。  
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。  
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

### 分配の推移

（1万口当たり、税引前）

決算期（年/月）	分配金
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-

分配金合計額 設定来：0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

### 通貨別構成（純資産比）

通貨	比率
日本円	71.5%
米ドル	16.9%
ユーロ	3.0%
香港ドル	1.9%
韓国ウォン	1.2%
豪ドル	1.0%
台湾ドル	0.9%
英ポンド	0.6%
南アフリカ・ランド	0.6%
その他	2.4%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

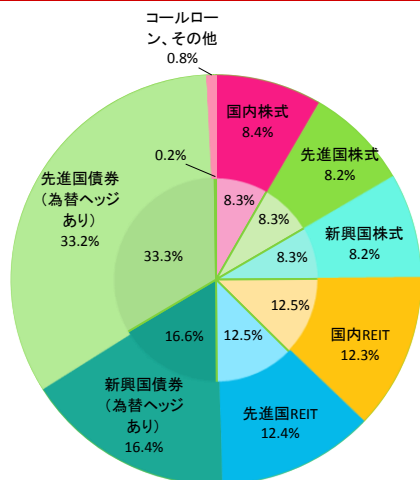
※比率は、組入ファンドの合計です。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

### 国・地域別構成（純資産比）

国・地域名	比率
アメリカ	28.1%
日本	21.5%
フランス	4.4%
イギリス	3.7%
イタリア	3.1%
ドイツ	2.6%
メキシコ	2.2%
中国	2.2%
トルコ	2.1%
その他	30.1%
合計	100.0%

### 資産別組入ファンド比率（純資産比）



成長タイプ	基本配分比率	2016年8月	2016年9月
国内株式ファンド	8.3%	8.3%	8.4%
先進国株式ファンド	8.3%	8.2%	8.2%
新興国株式ファンド	8.3%	8.2%	8.2%
国内REITファンド	12.5%	12.4%	12.3%
先進国REITファンド	12.5%	12.5%	12.4%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	33.3%	32.5%	33.2%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	16.6%	16.2%	16.4%
コールローン、その他	0.2%	1.6%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※円グラフの内側の数値は基本配分比率、外側の数値は基準日ベースの実際の組入比率です。

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

# 《トリプル維新ファンド(成長タイプ) 組入ファンドと月次変動》

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

投資信託証券(ファンド名)	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+3.4%	+9.1%	---	+12.9%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.9%	+6.3%	---	+9.1%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.3%	+12.3%	---	+15.0%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-1.3%	+0.2%	---	+5.3%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-1.0%	+1.7%	---	+4.1%
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-0.1%	+0.5%	---	+0.7%
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-0.1%	+3.8%	---	+4.4%

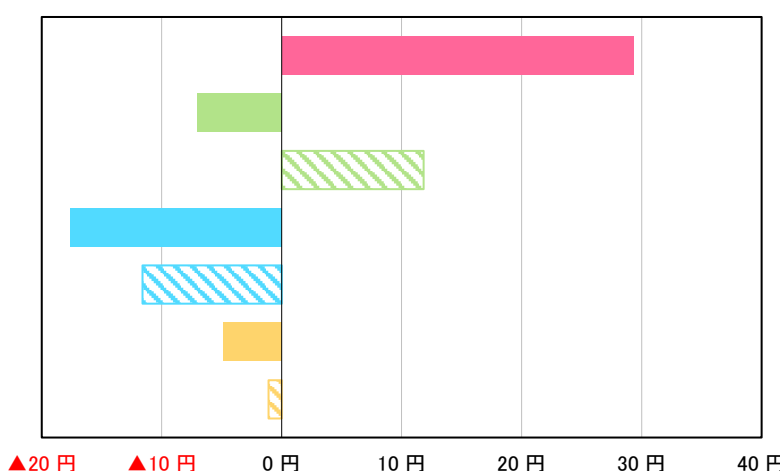
※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2016年9月末の基準価額	10,460 円
2016年8月末の基準価額	10,472 円
変動額	▲12 円

内訳	合計
国内株式ファンド	29 円
先進国株式ファンド	▲7 円
新興国株式ファンド	12 円
国内REITファンド	▲18 円
先進国REITファンド	▲12 円
先進国債券(為替ヘッジあり)ファンド	▲5 円
新興国債券(為替ヘッジあり)ファンド	▲1 円
小計	▲1 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲11 円



※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「(適格機関投資家専用)」を省略しています。

ファンドマネージャーのコメント

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

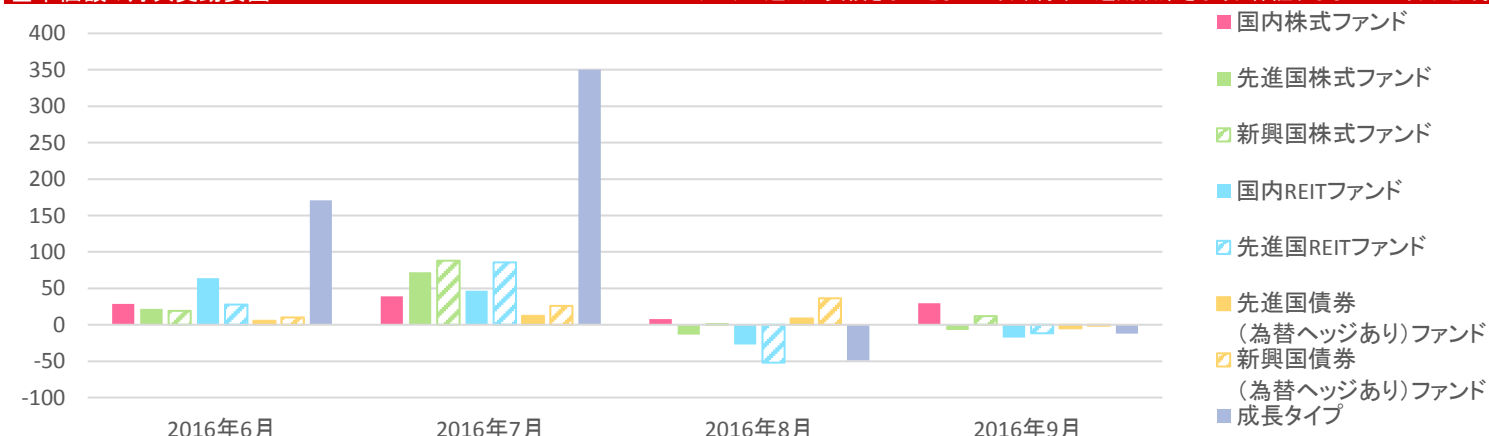
ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

日銀の金融政策不透明や円高進行および米国利上げへの警戒感などを受けて、国内REITや先進国REITがファンドの下落要因となりました。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



# 投資環境

## 市況概況

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

### (国内株式)

国内株式市場は上昇しました。日米の中央銀行の政策や、米国大統領選挙の動向などに一喜一憂する展開でした。月半ばにかけて、米国での利上げ観測やクリントン大統領候補の健康問題などで株価は下落しました。その後、日銀による金融緩和の持続性を高めるような政策変更や、米国の利上げ見送り、米国大統領選挙テレビ討論会でのクリントン大統領候補優勢を受けて株価は反発しましたが、月末近くは欧州大手銀行の信用懸念で神経質な値動きとなりました。

### (先進国株式)

先進国株式市場はほぼ横ばいの動きとなりました。米国の経済指標が予想外に下振れしたことや原油価格が軟調に推移したことを受け、9月中旬にかけて上値の重い展開となりました。9月下旬にかけては欧州での銀行業界への経営懸念が嫌気されて、ややリスク回避の動きも見られましたが、FOMC(米国連邦公開市場委員会)で大方の予想通りに金利据え置きが発表されると、市況は安心感から上昇基調となりました。

### (新興国株式)

新興国株式市場は、香港株式市場の上昇の影響が大きく全体としては上昇となりました。香港株式市場は中国経済指標の改善が確認されたことを受けて堅調でした。商品市況の上昇がリスクテイクの動きにつながったことも、好材料となりました。台湾株式市場は、米国大手情報機器メーカーの新商品が堅調な売れ行きだったためハイテク株が買われたことから、堅調に推移しました。インドネシア株式市場も、インドネシア中央銀行の利下げが好感される形で上昇しました。一方、タイ株式市場は、前月までの上昇に対する利益確定の動きから売られました。

### (国内リート)

国内リート市場はやや弱含む展開となりました。月半ばにかけては、日銀の金融政策に対する不透明感や米国での利上げ観測などを背景に、ボックス圏で神経質な動きとなりました。その後は、日銀による金融緩和の持続性を高めるような政策変更や、米国の利上げ見送りを受けて、あく抜け感などから戻りを試す局面もありましたが、足踏み状態を脱するまでには至りませんでした。

### (先進国リート)

海外リート市場は下落しました。米国では月上旬にFRB(米国連邦準備制度理事会)高官発言を受け利上げ前倒しの思惑が強まったことが嫌気されました。欧州では、域内大手銀行の信用不安を背景に、イタリアやドイツ市場を中心に売り圧力が強まりました。アジア・オセアニアでは、大手商業施設リートの業績動向が懸念された豪州市場の値下がり相対的に大きくなりました。

### (先進国債券)

先進国債券市場はほぼ横ばいの動きでしたが、国によりまちまちな展開となりました。月前半はECB(欧州中央銀行)理事会において市場の一部で期待されていた国債買い入れ策の延長が決定されなかったことや、日銀が長短金利差の拡大に動くとの市場の観測などから金利は上昇し、軟調となりました。しかし、月後半はFOMCにおいて今後の政策金利の見通しが引き下げられたことや、欧州大手銀行に対する経営不安などから、金利は低下し、堅調となりました。こうした金利の動向を受けて、米国がおおむね横ばいとなった一方で、豪州は軟調な動きとなりました。

### (新興国債券)

米ドル建て新興国債券市場はほぼ横ばいの動きでしたが、国によりまちまちな展開となりました。議会選挙で中道右派政党が予想よりも多くの議席を獲得したクロアチア、格付会社のスタンダード・アンド・プアーズから格上げされたハンガリー、原油上昇でベネズエラ、前月の反動で南アフリカが堅調となりました。一方、格付会社のムーディーズ・インベスターズ・サービス(以下、ムーディーズ)による格下げでトルコ、米国大統領選挙でトランプ氏が勝利するとの懸念からメキシコ、ドゥテルテ大統領による政策不透明感を格付会社から指摘されたフィリピンが軟調となりました。

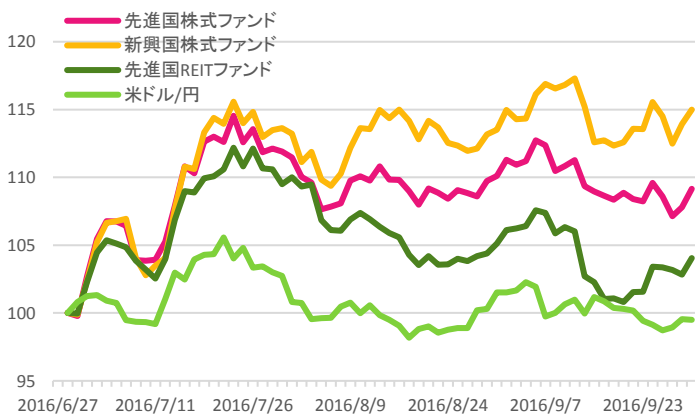
### (為替)

為替市場では、やや円高に推移しました。

対米ドルでは、9月上旬にかけて材料難の中、円安基調で推移しました。その後米国の経済指標が予想外に下振れし、リスク回避の動きが高まったことで、円高基調に転換しました。中旬以降は方向感の無い展開となりましたが、下旬にFOMCで金利据え置きが発表されたことを受け、再び円高基調となりました。また欧州では金融政策が据え置かれたことから対ユーロで円は小動きとなりました。

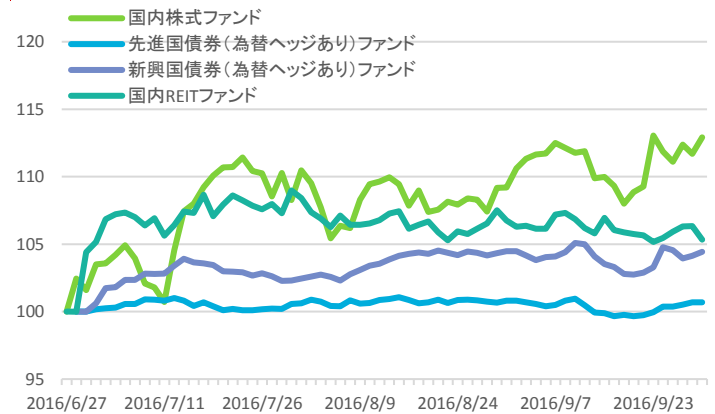
新興国通貨は、対米ドルではまちまちな値動きとなりました。ロシア・ルーブル、南アフリカ・ランドなどは、商品価格が上昇したことで買われました。一方、ムーディーズが国債を投資不適格に格下げしたトルコ・リラ、政権不信が根強いマレーシア・リンギット、米国大統領選挙の結果によっては米国との貿易の減少が見込まれるメキシコ・ペソなどは下落しました。対円については、日銀の新しい金融政策は実質的に金融緩和効果が無いと判断されたことなどから、新興国通貨に対しても全体としては円高が進みました。

組入ファンド(為替ヘッジなし)と為替の価格の推移



※ファンド設定日を基準として指数化しています。

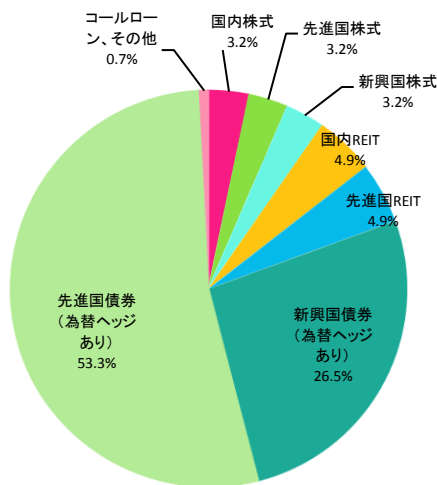
組入ファンド(為替ヘッジありおよび国内資産)の価格の推移



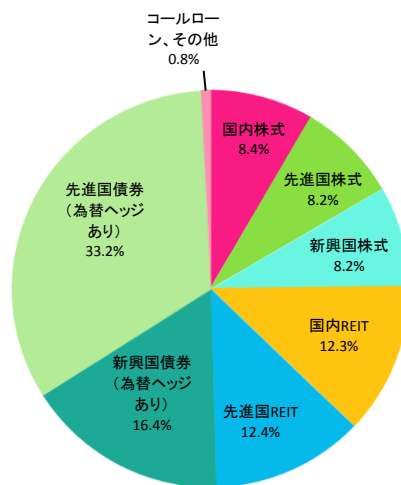
# 《各コースの資産・通貨別構成と基準価額の比較》

## 資産別組入ファンド比率(純資産比)

安定タイプ



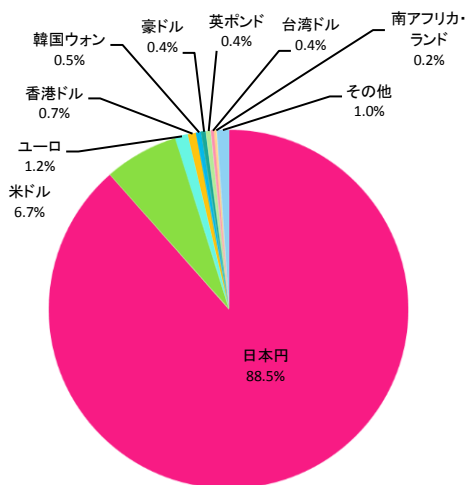
成長タイプ



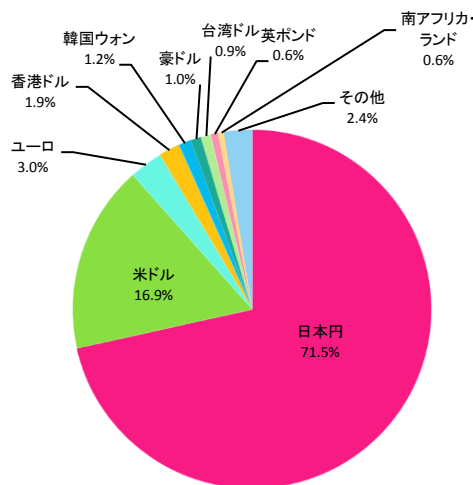
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

## 通貨別構成(純資産比)

安定タイプ



成長タイプ



※大和投資信託のデータを基にワイエムアセットマネジメントが計算しています。

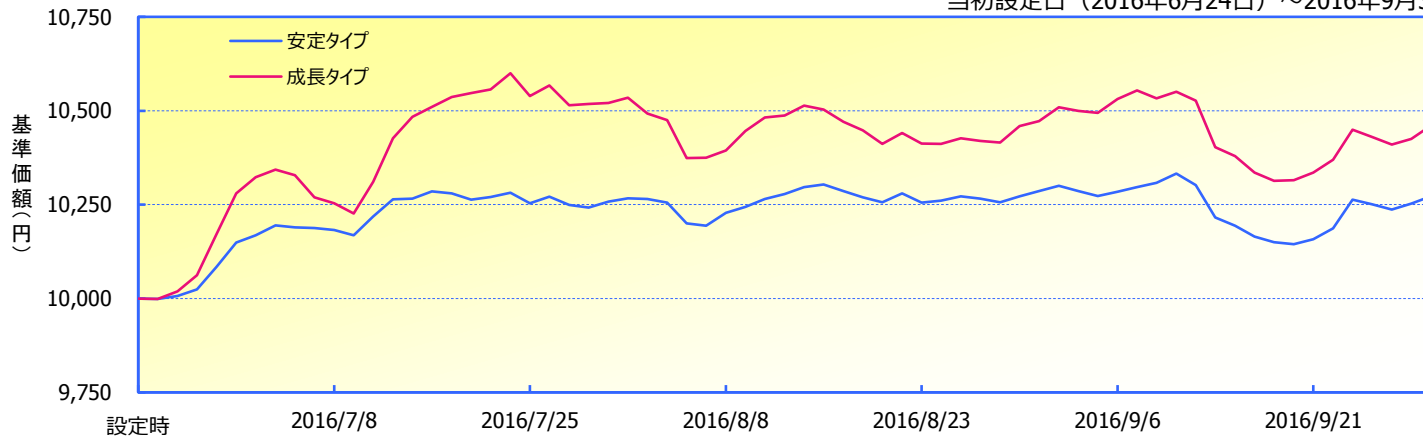
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

## 基準価額(分配金再投資)の比較

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

当初設定日(2016年6月24日)~2016年9月30日



※「基準価額(分配金再投資)」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(7ページ目の《ファンドの費用》をご覧ください)。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

## 《ファンドの目的・特色》

### ファンドの目的

- 内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

### ファンドの特色

1. 複数の投資信託証券への投資を通じて、主として内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資します。
2. 各資産への投資比率が異なる「安定タイプ」と「成長タイプ」の2つのタイプから選択できます。
3. 山口フィナンシャルグループの運用会社であるワイエムアセットマネジメント株式会社がファンド運用を行ないます。
4. 内外の債券、株式およびリートを実質的な投資対象とする複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

- ・各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。  
YM アセット・バランスファンド（安定タイプ）：「安定タイプ」  
YM アセット・バランスファンド（成長タイプ）：「成長タイプ」
- ・各ファンドの総称を「YM アセット・バランスファンド」とします。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

## 《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

## 《ファンドの費用》

お客さまが直接的に負担する費用		
購入時手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 （信託報酬）	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して次に掲げる率	
	安定タイプ	成長タイプ
	年率 1.107%（税込）	年率 1.215%（税込）
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.2052%（税込）～年率 0.324%（税込）	年率 0.2052%（税込）～年率 0.324%（税込）
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.380%程度（税込）*	年率 1.482%程度（税込）*
その他の費用・ 手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。	

\*実際の組入状況等により変動します。

※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

## 《当資料のお取り扱いにおけるご注意》

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

- ▶ ワイエムアセットマネジメント株式会社  
083-223-7124（営業日の9:00～17:00）

当社ホームページ

- ▶ <http://www.ymam.co.jp/>

## 《販売会社》

販売会社（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）	登録金融機関	登録番号	加入協会	
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○	○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○	○
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。